

# 教員紹介

## 学派を超えた新たな心理療法の研究

第5回目の教員紹介では、人間文化創成科学研究科人間科学系准教授の岩壁茂先生にお話を伺います。岩壁先生は、大学院では人間発達科学専攻、また、学部では生活科学部人間生活学科・発達臨床心理学講座のご所属で、臨床心理学をご専門とされています。今回は、先生のご専門にあわせて、最近のご著書もご紹介いただきました。



*Shigeru Iwakabe*

岩壁 茂

一見他者に向けられているようなことが、  
人との気持ちをつなげ、自分のためになります。  
人との関わりを深めることは、お互いを高めることになるので、  
ぜひ大切にしてほしいですね。

先生のご専門について  
お聞かせください。

臨床心理学が専門で、特に、心理療法について研究しています。カウンセリングを通して、人はどのように変わるのか、人が変わるプロセスに興味を持っています。

先生がおっしゃる「変わる」  
というのは、何を指して  
いらっしゃるのですか。

もちろん、行動面や専門的な基準に照らして変化があるかということも重要ですが、1番大きな部分は本人の感じ方です。カウンセリングを

求めるのも「主観的に」気分が優れないからです。そこで、自分であること、今の時間を十分に体験でき、様々な感情を体験し、「自分の感覚」を取り戻すことです。このようなクライアントのプロセスを感情の変化として研究しています。

心理療法にはいくつもの種類があると思うのですが、先生はどの心理療法がご専門なのですか。

心理療法のアプローチは400種類以上あるといわれています。私は学派を超えてより効果的なアプローチを目指す統合的アプローチをとります。



現在もカウンセリングを実践されていますか。

本学大学院（発達臨床心理学コース）は、臨床心理士（※1）の養成の第1種指定校になっているため、学内に大学院生の実地訓練の場として「心理臨床相談センター（※2）」を設置しています。私はそこで、学生のスーパーバイザーをやっていますが、自分自身でも、クライアント

を受け持って実際にカウンセリングをしています。

※1 臨床心理士：財団法人「日本臨床心理資格認定協会」の出す資格であり、本学人間文化創成科学研究科人間発達科学専攻発達臨床心理学コースを修了すると、臨床心理士の受験資格が得られる。

※2 心理臨床相談センター：一般の方を対象に、主にお茶の水女子大学大学院人間文化創成科学研究科発達臨床心理学コースの教員が運営委員となり、その監督の下で大学院生が相談を行っている相談室。

詳細は、

<http://www.develop.ocha.ac.jp/soudan.html>

お茶大生にメッセージをお願いします。

産業におけるメンタルヘルスをテーマに、早期離職の要因も研究しているのですが、人との関わりが大切であることを実感しています。高校や大学のはじめでは、机に向かって一人で自分の能力を高めるのが勉強の中心にあります。しかし、大学から社会にかけて徐々に人との関係の中で自分の力を出していくことが、大切になってくると思います。その中で優しさや思いやりなど、一見他者に向けられているようなこと

が、人との気持ちをつなげ、自分のためになります。人との関わりを深めることは、お互いを高めることになるので、ぜひ大切にしてほしいですね。



インタビューを終えて

さすが、カウンセラー。お忙しい中、終始優しい口調でお話くださいました。先生は心理療法研究において精力的にご研究をされており、たくさんの論文、ご著書を発表されています。最近では、「心理療法・失敗例の臨床研究—その予防と治療関係の立て直し方—」、「プロセス研究の方法（臨床心理学研究法 第2巻）（臨床心理学研究法）」を執筆されています（下記参照）。

聞き手 赤松 利恵

（人間文化創成科学研究科  
自然・応用科学系 准教授）



「心理療法・失敗例の臨床研究—その予防と治療関係の立て直し方—」（金剛出版）  
心理療法の失敗について、事例を交えて失敗要因を解説するだけでなく、失敗を予防するための指針もまとめられている。臨床心理の実践家や養成に携わる教育研究者の必読書として紹介されている（写真左）。

「プロセス研究の方法（臨床心理学研究法第2巻）」（新曜社）

カウンセリングにおけるクライアントが変わっていく過程を研究するプロセス研究の手引きとなる書。最近注目を浴びているプロセス研究を学びたい方におすすめしたい（写真右）。

教員紹介  
学派を超えた新たな心理療法の研究